

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1171100629		
法人名	社会福祉法人 椿寿会		
事業所名	シニアレジデンスつばき		
所在地	埼玉県北葛飾郡杉戸町才羽2123		
自己評価作成日	平成28年11月10日	評価結果市町村受理日	平成29年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/1_1/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ケアマネージメントサポートセンター		
所在地	埼玉県さいたま市中央区下落合五丁目10番5号		
訪問調査日	平成28年11月24日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

広々とした田園風景の中に立地しており、天気の良い日には遠くの富士山やスカイツリーを望むことができます。四季折々の風景を楽しむことができ、春の田植えや秋の稲刈りなどを見ることを楽しみにしている方も多くいらっしゃいます。夏にはアグリパークで打ち上げられる花火を真正面から見る事が出来るため、利用者様だけでなくご家族の方も楽しみにしておられます。敷地内にある小さな畑では、サツマイモや胡瓜やナスを植えて育てており、毎年収穫を楽しみにして、美味しく味わっております。その他、季節の移り変わりを感ずる事ができるようにイベントを行ったり、食堂の飾り付けを利用者様と作っています。比較的長く努めている職員が多く、利用者様との良好な信頼関係が築けており、同じ法人の施設も近くにあるため、状態に応じた対応をすることができております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

・ラジオ体操を始め、肩や首、足首を回す体操など身体機能の維持のため、多くの時間を割き利用者の健康管理に努められている。また、マフラーを編まれたり、昼食用に油揚げに酢飯を詰め、いなり寿司づくりに励まれるなど、利用者一人ひとりの思いや好みを大切に日々楽しく過ごされるよう支援をされている。
 ・ご家族のアンケートでも、「本人の状況など見ているいと配慮していただいています」、「職員が四六時中誰かがみているので安心できる場所」、「静かな落ち着いた環境、職員が良いと思います」などのコメントが寄せられ職員の支援や対応に、ご家族からも良好な評価が得られている。
 ・平成27年度は厚労省通知の要件を満たし、外部評価の実施は緩和されたものの、自己評価を基に課題を設定され、定期訓練では火災発生を想定し、煙対策として各自タオルを持つての避難や緊急連絡網の模擬訓練を実施されるなど、実践的な訓練に取り組まれていることから、目標が達成されている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日申し送り後、全員で介護理念・運営理念を唱和し、介護に活かす努力をしている。壁面装飾や行事に、季節の物を取り入れている	職員全員で意見を出し合って作成した運営理念や介護理念のもと、安心・安全な環境の中で、その人らしく、笑顔で楽しく過ごされるようチームでケアに取り組まれている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町の文化祭や杉戸ピアのサマーコンサートに入居者様の作品を出展し、見学に行っている。散歩の際に、近所の方と挨拶をし会話している	散歩や外出時には近所の方と挨拶を交わされたり、法人内他事業所での催事でも地域の方や子供さん達と一緒に楽しんでいる。その他、ボランティアとの交流など、利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう支援をされている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に1度の運営推進会議を通して、役場・地域の方・ご家族に更に理解を深めて頂けるよう努力している		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議での意見や質問を職員で更に検討し、その後介護に活かしている	事業所から日常のサービスの取り組み状況や事故防止対策などの報告のほか、外出支援や防災対策など、幅広い内容での意見交換が行われ、有意義な会議運営をされている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場にて連絡・相談・報告等を行い、その時々適した助言や指導を頂いている	行政の担当者からは、運営推進会議でアドバイスをいただいたり、申請手続きや報告・相談時のほか、事業所連絡会議などでコミュニケーションを図られ、良好な協力関係を築かれている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、担当者会議を開いており、身体拘束について理解を深めている。玄関にセンサーを設置し、無断外出に気をつけている。居室は施錠していない	定期的に勉強会が行われ、全ての職員が身体拘束の内容とその弊害を認識し、外出願望の強い方には職員がいっしょに外出するなど、行動抑制をしないケアに取り組まれている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員一人ひとりが虐待を見逃す事がないよう注意を払っている。又、職員同士での話し合いや勉強会で虐待についての共通意識を高めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用されている入居者様への理解を職員が深めるよう、日々話し合い努めている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約については、見学の際に十分に説明し、疑問などを尋ね理解して頂いている。解約時には現状の状況を十分に説明し、理解して頂けるよう努めている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議での意見や質問を職員で更に検討し、その入居者様の生活に活かしている。利用者様やご家族の意見を汲み取れるよう、日々努力している	利用者とは日々の会話の中で、思いや要望を聴くよう努められている。家族とは面会時や運営推進会議などで、必ず話をする機会を設け、要望を聴いたり、利用者の様子をお伝えするなど、情報交換に取り組まれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の担当者会議やリーダー会議において、職員の意見・提案等を聞いている	担当者会議やリーダー会議などで意見・提案を聴き取られている。利用者楽しく過ごすためのおやつ作りや外出企画、クリスマスのプレゼントなど具現化されている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得へのスクーリング出席等、シフト面で考慮し促している		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修に参加し、職員の質の向上に努めている		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	意見交換の場として、町の事業者連絡会議などに参加している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	不安に思われている事をよく聞き、少しでも軽減出来るように見学時に話を伺っている		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	見学して頂きながら、困っている事や不安なこと、要望等をよく聞き、十分説明し信頼関係が持てるよう努めている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様、ご家族様の要望をよく聞き、その中で必要な支援が選択出来るよう努め、助言している		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりの生活を大切にし、出来ることについては行って頂き、支援が必要な部分については、一緒に行い信頼関係を築いている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や行事等で近況報告し、理解して頂けるよう努めている。行事等の参加は、積極的に呼びかけている		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	知人等の面会時には、明るい挨拶を心がけ、又来ていただけるよう声掛けをしている	近くの神社へのお参り、馴染みの店での買物や外食のほか、地域や法人内他事業所のイベントなどに出かけ、昔からのつきあいのある友人と交流をされるなど、利用者がこれまで大切にしてきた関係が途切れないよう支援をされている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日々の生活の中で、一人ひとりの入居者様の性格や行動を読み取って、孤立しないよう、無理がないような関係が保てるよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約が終了しても、関係を断ち切らないよう「いつでもお寄りください」と声掛けをしています		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り、希望に添えるよう意向を聞いている。伝える事が困難な入居者様でも、毎日の生活の中から汲み取る努力をしている	利用者とのコミュニケーションを大切に、思いや意向の把握に努められている。口数の少ない利用者については、故郷の食べ物や話題を会話のきっかけとし、思いや意向を聞き出すよう努め、利用者本位に検討をされている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族様、入居者様から情報を得ている。身寄りのない入居者様でも、毎日の生活の中から汲み取る努力をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日誌・個人記録に記録し、朝夕の申し送りに共有している。又、日々の職員間での話し合いの中で情報を共有している		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月1回の担当者会議で見直し、改善を行っている。急激な身体状況の変化があった場合にも見直しを行い、変更している。又、更新時にも入居者様とご家族に意見を伺っている	利用者や家族から思いや意向を聴きとり、医師の指示を含め、関係する職員で意見交換を行ない、その人らしさを大切に、現状に即した介護計画が作成されている。見直しについても毎月の担当者会議で検討をされている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日誌や個人記録に毎日の様子・変化や気づいた事などを記入し、職員同士で共有している。介護計画作成時には見直しの資料にしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々の生活の中で、一番必要と思われる支援を見逃さないように努め、素早く対応していくよう取り組んでいる。又、受診が困難な入居者様においては、職員が同行している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	納涼祭やクリスマス会では、ボランティアに来て頂き一緒に楽しんでいる。月1回、ボランティアの先生にパドル体操を教えて頂き、身体を動かしている。年2回、避難訓練を行っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	可能な限り希望を聞き入れて対応している。入居者様には、かかりつけ医に情報提供を求めている	入居時に利用者や家族の希望を尊重し、医療機関を選択していただいている。専門医等かかりつけ医の受診は家族対応を基本としているが、必要な情報提供を行ない、適切な診療が行なわれるよう支援をされている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師が居ないので、協力病院に毎日のバイタル・食事量・水分量をFAXし助言を求めている。体調不良の場合は、その都度連絡し指示を仰いでいる		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には面会に行き、情報収集している。ご家族様からは、入院計画書等の情報を求めている。入居者様が安心して戻れるよう声かけしている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	計画時にご意向を伺って説明している。重度化した場合には主治医から説明や支持を受け、ご家族と方向性を共有し支援に取り組んでいる	入居時に重度化・終末期についての話し合いが持たれ、利用者・家族と意志統一を図られている。その後も意志確認を進めながら、医師・看護師との連携のもと、重度化・看取り支援に取り組まれている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時はマニュアルに基づき対応している。又、いつでも見えるところに掲示し、職員が素早く動けるようにしている		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の避難訓練を行っている。又、災害時相互援助協定書があり、同法人より援助が可能となっている	定期訓練では、夜間時にA棟浴室からの出火を想定し、初期消火・通報・一次避難場所への誘導訓練や緊急連絡網の模擬訓練の実施などに取り組まれている。また、備蓄品の整備などの体制整備にも努められている。	災害対策には充分取り組まれているが、高齢の利用者をあずかる事業所として、火災や地震のみならず、災害時の組織対応力の向上に向けた取り組みを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりが言葉遣いに注意すると共に、職員同士でも注意し合っている	上から目線では無く、利用者のプライドを大切にしたいケアや入浴時には他の利用者に裸をさらさないよう配慮されるなど、利用者の人格を尊重した対応、排泄時の羞恥心に対する対応など、きめ細かな対応がとられている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	自ら決定できやすいよう、言葉掛けや対応に注意している。又、希望がいない入居者様においても、その思いが汲み取れるよう努めている		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの生活のペースを大切に、出来る限り希望に添えるよう支援している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	2ヶ月に1回、床屋さんに来て頂いている。季節にあったコーディネートが出来るよう声掛けしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	当番制で食器洗い・食器拭きを行っている。テーブル拭きや下膳などは積極的に入居者様が行っている	利用者個々の力に合わせ、下げ膳や食器拭きなどのほか、おはぎやお好み焼きなどを手づくりされている。また、ピザや寿司、スイーツを食べに出かけられるなど、利用者の好みや希望を大切にしたい支援に取り組まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人ひとりに合わせ、食べる量や形態を工夫している。食事量・水分量は毎回記録している。メニューは、カロリー計算された業者のものを使用し、同じテーブルで食す事で入居者様の変化に気づけるよう努力をしている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けにて居室にて行っている。見守りが必要な入居者様には毎食後、ホールにて行い口腔内を確認している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄は殆どの方が自立している為、必要に応じて対応している。おむつ使用の入居者様においては、定時対応をし、清潔に努めている	すぐにオムツの使用をすることなく、利用者一人ひとりの力や排泄パターン・習慣を把握して、適宜、声かけを行い、トイレでの排泄や自立にむけた支援が行われている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	チェック表に記入し把握している。必要に応じて医師処方薬を服用しているが、自然排便が促されるよう、散歩や体操等を行っている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	一人ひとりに合わせて入浴日を決めているが、入居者様の都合で交代になることもある。ユニット毎にお風呂があるので、ゆったりと入浴出来ている	利用者の希望に沿った支援をされている。入浴拒否の方には声をかける職員や日を変えるなど工夫をし、無理強いしないようされている。また、利用者個々の状態に合わせ、職員複数での介助体制をひいたり、ヒートショック対策など、安全対策が取られている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各自個室で、思い思い休息できている。季節に合わせて、寝具等の交換など職員と一緒にしている。天気の良い日は布団を干し、週1回シーツ交換を行っている		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人ひとりの使用している薬を職員が把握すると共に、毎食後手渡しにて服用して頂いている。変更があれば申し送り、変化がないか様子を確認している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物干し、洗濯物畳み、テーブル拭き、食器拭き、花の手入れ等お願いしている。又、一緒におはぎやおやつ作りを行うなどして楽しんでいる		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や希望があった時には、戸外に出られるよう心掛けている。季節に合わせて花見に出掛ける等、気分転換している	事業所周辺での散歩や庭での外気浴、買物や外食などでリフレッシュされている。その他、法人内他事業所で幼稚園児と一緒に遊戯や歌を楽しまれたり、花見や地域のイベントなどに出かけられるなど、利用者の希望を大切に支援が行われている。	外出支援には積極的に取り組まれています。ご家族からは外出の状況が見えにくいと想定されることから、利用者の普段の生活振りをお伝えし、事業所の取り組みを理解していただき、より深い信頼関係を築かれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いについては、事務所で管理している。希望があれば、いつでも使用できる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	居室には電話は無いが、事務所の電話がいつでも使用することが出来る		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節を感じられるよう掲示物に工夫をしている。皆で一緒に作品を作ることで、良い関係を築いている。転倒をしないようテーブルの配置に気をつけている	リビングルームには、雪を被った富士山や囲炉裏にきりたんぼ鍋を描いた大判の創作壁絵やクリスマスツリーなどが飾られ、季節感のある飾り付けで、利用者が居心地良く過ごせるよう工夫をされている。また、毎日掃除の時間が設けられ、居室を含め清潔維持と衛生管理に努められている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	話好きな入居者様が楽しく会話出来るよう、テーブル席に配慮している		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた物を持参して置く事が出来る。壁などには自分の作品など好きな物を飾っている。一人ひとりに合わせた居室作りを心掛けている	馴染みの寝具、好みの家具や写真に囲まれ、落ち着いた居室空間が造られている。利用者の動きに合わせてベッドの位置を工夫され、安全・安心な生活が送れるよう支援をされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室の入り口に名札を掛け、一目で自分の居室が分かるようにしている。手すり等を設置し転倒防止に努めている		

目標達成計画

作成日：平成 29 年 1 月 12 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1		今まで通り年2回の訓練では緊急時の適切な行動は難しいと思われる。いざという時に職員が適切な判断で行動で切る出来るようにすることが必要である。	火災、地震だけでなく災害時の組織対応力の向上に向けた取組を考える	緊急時を想定し、少しでも早く連絡網を回して伝達出来るよう繰り返し行う。災害時に実際に集合出来る人数、時間を把握し、役割り分担を明確にし全員が周知できるようにする。消防訓練以外に年数回利用者も含め避難の練習を行い、常に意識を持てるようにしていく	1ヶ月
2		外出支援がご家族に見えにくい	外出以外にも日々行っている様子をご家族に知って頂けるようにする。	月に1度手紙を送付する際に、外出又はレクレーションなどの写真を添付し様子を知らせる。年間の行事予定の配布を行う。	1ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。